

専門調査員の仕事内容・魅力について

在ウズベキスタン大使館

専門調査員(現職)

1 ダイナミズムに富むウズベキスタン

ウズベキスタンは中央アジアで最も人口が多く(3157万人、2015年政府発表)、その多くが若年層であり、年間7.8%(2015年政府発表GDP成長率)の経済成長を遂げるダイナミズムに富む国です。2015年10月の安倍総理訪問、2016年8月の安倍総理夫人・文化ミッション一行の訪問及び和太鼓DRUM TAO公演を受けて、日本とウズベキスタンの関係は、現在まさに発展途上にあります。ウズベキスタンの政治・経済・社会の変化を体感しつつ、両国の関係発展に貢献できる仕事、それが専門調査員と言っても過言ではありません。

2 「外交の現場」での仕事

在外公館における仕事は、まさに「外交の現場」に身を置き、各種業務に従事することになります。在ウズベキスタン大使館では、専門調査員は経済班、政務班に所属し、資料作成、各種報道や報告書の翻訳、調査・分析とりまとめ作業に従事しつつ、人材育成支援無償奨学計画(JDS)事業の調整業務等に従事します。JDSとは、ウズベキスタンの官民人材に日本の修士・博士課程への留学機会を提供することで次世代を担うリーダーの育成を日本政府が支援する事業です。同事業の実施の為にはウズベキスタン政府との間で交換公文に署名する必要があり、その調整業務に専門調査員は従事します。カウンターパートとの調整には大きな責任が生じ、締切り等もある中でハラハラする業務ですが、仕事にはやりがい生まれるはずで。

また安倍総理の訪問後、当地には様々な要人が来訪しており、その際の受入業務等にも従事します。私は、総理訪問時にはプレス担当5業務を兼務しました。また文化ミッションの受入においても次世代リーダーとの意見交換等の調整に従事しました。他にも国費留学生の面接を行ったり、自らの専門性を生かした分析調書を執筆したり、業務にかかわる会議等に出席したり、現地の研究者と交流する等もしました。

3 専門性を生かした仕事内容

専門調査員とは、その名の通り、その専門性を生かした調査に従事する仕事です。専門性とは、多くの場合、対象地域の言語(当館で言えば、ロシア語)を用いて各種業務をする能力を有していることを指し、報道の翻訳や分析、とりまとめ作業にすべからず様々な在外公館の専門調査員は従事しています。

他方で、専門性とは、単に一定水準の言語能力があることを意味せず、むしろ研究者としての学術的な能力(問題を発見・設定をする能力、学術的な着眼点、ディシプリンの調査分析手法、論理的思考能力、社会科学・人文学等における研究作法を身につけていること等)、あるいは専門家としての知見にこそあるものと個人的には思っています。このような研究者(専門家)としての矜持を持っていれば、日々の業務の中で、実は自らの専門性を生かす機会は多くあり、自分次第で様々なことを経験できるということに気がつくと思っています。

4 外務省職員の仕事を疑似体験

専門調査員は、2年間、外務省在外公館において外務省職員の皆様と様々な業務に従事します。組織の中で働き、同僚と支え合い、チームワークで様々な課題を乗り越えていく。こうした環境の中で研究とは異なる醍醐味を感じることができるかもしれません。またこの2年間を「外務省職員の仕事を疑似体験する機会」と捉えることもできるのではないのでしょうか。そう思うと仕事に対するモチベーションも変わるかもしれません。是非、専門調査員として勤務するという機会を各々のキャリアパスの中で生かされると良いと思います。